

# 平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 3月 30日

研究・研修課題名	3学会合同呼吸療法認定士資格所得のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部
研究・研修責任者名（所属）	黒崎育美（リハビリテーション部）
共同研究・研修者名（所属）	黒崎育美（リハビリテーション部）

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目的（800字程度）

呼吸理学療法の対象となる疾患は神経筋疾患や脊髄疾患、COPDなどの呼吸器疾患、外傷性の疾患など多岐にわたり、本院においては手術前の呼吸療法の介入やICUにおける手術後超急性期からの介入症例も増加している。人工呼吸管理を必要とする患者も多く、理学療法士を含むRCTによる介入は診療報酬上においても重要視されている。呼吸理学療法の有用性については、呼吸状態の改善、周術期における肺合併症の予防など数多くの報告がされている。本院においても早期から呼吸療法認定士が呼吸機能に対して適切に関わることで合併症を減少させ、在院日数の短縮に寄与できると考える。

理学療法士がICUをはじめとする周術期への積極的な介入を進めていくなかで、呼吸機能に関する専門的な知識や技術は必要であり、医療の質を高め、より効果的な介入をしていくためにも、呼吸療法士の資格を取得していくことは必須であると考えます。

本研修においては、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会の3学会が創設した、3学会合同呼吸療法認定士の資格取得を目的とする。

### ②方法（800字程度）

平成28年8月に行われる3学会合同呼吸療法認定講習会を受講する。講習会に参加し認定試験受験資格を取得の後、11月に開催される認定試験を受験し、合格することにより資格を取得する。以下に資格取得までの概略を示す。

～3学会合同呼吸療法認定士の取得要件～

■理学療法士として2年以上の実務経験があること

■受講申し込みの申請時点から過去5年以内に認定委員会が認める学会や講習会などに出席し、12.5点以上の点数を取得していること

（平成28年に行われた島根県理学療法士会主催の講習会に参加し取得済み）

■2日間の講習を受講すること

以下に、講義内容を示す。

I. 血液ガスの解釈 II. 呼吸不全の病態と管理 III. 酸素療法

IV. 人工呼吸器の基本構造と保守および医療ガス V. 気道確保と人工呼吸

VI. 呼吸リハビリテーション VII. 人工呼吸中のモニタ VIII. 呼吸不全における全身管理

IX. 開胸・開腹手術後の肺合併症 X. 新生児の呼吸管理 XI. NPPVとその管理法

## XII. 呼吸機能とその検査法

### ■認定試験に合格すること

#### ③成 果 (データ等の図表を入れて2000字程度)

(成果)

平成28年8月26日、27日に東京品川プリンスホテルで開催された講習会に参加

講義科目	時間 (分)
I. 血液ガスの解釈	80
II. 呼吸不全の病態と管理	60
III. 酸素療法	70
IV. 人工呼吸器の基本構造と保守および医療ガス	80
V. 気道確保と人工呼吸	80
VI. 呼吸リハビリテーション	80
VII. 人工呼吸中のモニタ	60
VIII. 呼吸不全における全身管理	60
IX. 開胸・開腹手術後の肺合併症	70
X. 新生児の呼吸管理	75
XI. NPPV とその管理法	60
XII. 呼吸機能とその検査法	60

平成28年11月27日、帝京平成大学中野キャンパスで開催された認定試験に参加

12月下旬、郵送にて結果報告(合格し資格取得)

平成29年2月中旬、認定証を受領

(成果詳細)

東京品川プリンスホテルでの2日間の講習(平成28年8月26日、27日)において、呼吸療法の基礎となる分野について学習した。人工呼吸器の基本構造やその管理法、開胸・開腹手術後の肺合併症など周術期における呼吸療法に必要な内容があり、本院での臨床において必要となる知識を多く得ることができた。また、本院では呼吸管理の必要な小児に介入することも多いため、新生児の呼吸管理について勉強することができたのは非常に良かった。呼吸リハビリテーションに関する分野においては、基礎的な部分も多かったが、新たに知り得たこともあり、理学療法士としての知識を更新することができた。呼吸療法に関する内容は幅広いため、それぞれの職種が協力し医療チームで呼吸療法に携わることの効率性や重要性、必要性を強く感じた。講習会を通して、様々な病態の呼吸状態や検査データの見方、管理方法を知ることによって、呼吸療法が必要な患者の状態を的確に把握し、排痰方法や肢位の決定、離床促進の判断やリスク管理に関する知識が深まった。臨床に生きる内容が多くあり、質の高い医療に貢献できると考えた。

平成28年11月27日の筆記試験では、マークシートによる選択式で試験が実施された。呼吸療法テキストや講習会の全範囲にわたって出題されていた。筆記試験は合格できた。全国での合格率は58.9%であった。

3学会合同呼吸療法認定士の試験に合格することが到達すべき最終目標と捉えず、これが出発点と

考え、今後とも研鑽を積み自他共に誇れる実力を培い、呼吸療法の更なるレベルアップや医療の質の向上に向けて努力をしていきたい。

\* 3 学会合同呼吸療法認定士認定委員会

3 学会合同呼吸療法認定士 受領【2017年1月1日】